

2013 激動の世界／言聞録にみる1年

【1月】

○「国際社会に対してボリビアは、米国が秘密の軍事作戦を実施したことを非難する」(同国のダビラ通信相＝写真、ボリビア国营通信ABI)＝8日、米国防総省に所属する米国人24人が昨年、観光目的でボリビアに入国、山岳地帯で軍事的な調査と訓練を実施していたと発表して。

○「アルジェリア政府はテロリストの要求には応じない。交渉もしない」(同国のウルドカブリア内相)＝16日、アルカイダ系武装組織によるアルジェリア南東部の天然ガス関連施設での外国人拘束事件に関して発言。同事件では日本人人質10人などが死亡。

○「和平協定は世界の良心の勝利だった」(ベトナムのグエン・チ・ビン元国家副主席)＝25日、米国によるベトナム侵略戦争を終結に導いたパリ和平協定調印40周年を記念する式典で演説。

○「われわれは過去の誤りを認め、将来二度と起きないようにせねばならない」(米ニューヨーク州のアベラ上院議員)＝29日、旧日本軍の「慰安婦」問題を記憶にとどめるとする決議を同州議会上院で採択後、記者会見で。

【2月】

○「全ての少女、全ての子どもが教育を受けられるように尽くしたい」(パキスタンで女性が教育を受ける権利を訴えてイスラム武装勢力に頭部を撃たれたマララ・ユスフザイさん＝写真、ロイター)＝4日、事件後初めてとなるビデオ声明を出し、決意を表明。

○「高齢により法王の任務を適切に果たすことがもはやできないと確信するに至った」(ローマ法王ベネディクト16世)＝11日、存命中の法王としては約600年ぶりに退位を表明。

○「中国政府は北朝鮮が国際社会の幅広い反対を顧みず、再び核実験を行ったことに強い不満と断固とした反対を表明する」(中国の楊潔○〈ようけつち〉外相)＝12日、北朝鮮が同日、3回目の核実験を実施したことに対し、北朝鮮の中国駐在大使を呼び、厳重に申し入れ。

○「この革命は誰にも止められない。われわれは歴史を築いている。小さな国だが、偉大な祖国を建設している」(エクアドルのコレア大統領)＝17日、3選を決めた大統領選挙で勝利宣言。

○「朝鮮半島信頼プロセスで、民族全体がより豊かで自由に生活し、夢を実現できる幸福な(南北)統一時代の基盤をつくる」(朴槿恵〈パク・クネ〉韓国新大統領)＝25日、ソウルの国会議事堂前広場で開かれた大統領就任式で演説。

【3月】

○「長く自治を続けてきた(パキスタンの)部族の歴史を、西洋はほとんど理解していない」(国連特別報告官のベン・エマーソン弁護士＝英国)＝15日、米国の無人機攻撃を主権侵害と批判して。

○「人民の叫び声を聞き、人民の期待に応え、人民の平等な参与や発展の権利を保証し、社会の公正・正義を守る」(中国の習近平国家主席＝写真、ロイター)＝17日、全国人民代表大会の閉幕式で演説。

○「インドは自主独立の外交政策をとっており、中国を封じ込める手段として使われることはない。両国はライバルでなく、協力パートナーだ」(インドのシン首相)＝27日、南アフリカのダーバンでBRICS首脳会議参加の機会に中国の習主席と会談。

【4月】

○「世界はこの歴史的条約を待ち続けてきた」(アムネスティ・インターナショナルのブライアン・ウッド氏)＝2日、通常兵器の国際取引を制限する武器貿易条約(ATT)が国連総会で採択されたことを歓迎して。

○「帝国主義にたいするたたかいをさらに固めた。中南米全体の勝利だ」(ボリビアのモラレス大統領)＝15日、ベネズエラ大統領選でチャベス前政権の改革を引き継ぐマドゥロ候補が当選したことを受けて。

○「(シーレーンを守るため)米国は太平洋の大国であり続ける必要がある」(ヘーゲル米国防長官)＝16日、米下院歳出委員会軍事小委員会での証言。

○「安全で平和な世界の唯一の保障が核兵器の完全廃絶」「いま行動する時。明日ではお

そすぎる」(ブラジル代表のアントニオ・ゲレイロ氏)＝22日、ジュネーブで始まった核不拡散条約再検討会議準備委員会で新アジェンダ連合を代表して。

【5月】

○「経済成長に伴い都市部で増えている中間所得層は、マレー系、華人系、インド系を問わず変化を求め、野党に共感している」(マレーシア民間研究団体のリタ・シムさん)＝5日投開票されたマレーシア総選挙で、野党が総得票数で与党を上回り、前進したことについて発言。

○「バングラデシュに関係する国際ブランドは、人権の尊重を監視する義務がある」(国連ビジネスと人権作業グループのスランジガ議長)＝8日、バングラデシュの縫製工場のビル崩壊事故に関連して。

【6月】

○「大統領選はイランに新しい時代をもたらした。われわれはイランと他国との間における相互信頼を高めなければならない」(イラン次期大統領のロウハニ師＝写真、ロイター)＝17日、大統領当選後、初の記者会見で、欧米との核交渉での立場を示して。

○「今後、治安維持のリーダーシップは、私たちの部隊が担う。アフガン人にとって偉大な日だ」(アフガニスタンのカルザイ大統領)＝18日、駐留する外国軍からアフガン側に治安権限を移譲する式典で宣言。

○「正義を伴った平和とは、その夢がいかに遠くても、核兵器のない世界の安全を追求することを意味する」(オバマ米大統領)＝19日、戦略兵器を3分の1減らす、ロシアとの新たな核兵器削減交渉に入る意思を表明。

【7月】

○「友人を監視するということは受け入れられない。もはや冷戦時代ではない」(メルケル独首相＝写真、ロイター)＝1日、米国家安全保障局が各国の在米公館を盗聴していた問題を批判して。

○「今年末までに全政治囚を解放する。ミャンマーではいま、大きな変化が起きている。半世紀にわたる軍事支配と専制支配から民主主義に移行しつつある」(ミャンマーのテイ

ン・セイン大統領) = 15日、訪問先の英国での講演で表明。

○「1日平均6000人だ。これほどの割合で難民流出が増えるのを見るのはルワンダ虐殺以来だ」(グテレス国連難民高等弁務官) = 16日、国連安保理でシリア難民の深刻さを指摘。

○「世界から多くの観光客が来るニューヨークで最低賃金がこんなに低いのは恥ずかしいことだ。公正な賃金が支払われるよう市議会で努力したい」(マーク・ウェプリン・ニューヨーク市議) = 29日、ニューヨークで行われた最賃引き上げと労働組合結成の権利を求めるデモに参加して。

【8月】

○「武装した無人機に関しては他の兵器と同じく、国際人道法などの国際法に従って使う必要がある。これは国連の明確な見解だ」(潘基文〈パン・ギムン〉国連事務総長) = 13日、訪問先のパキスタンの首都イスラマバードでの講演で。

○「キング牧師の夢を実現するには国民が繰り返し声を上げる必要があると思う」(米ミシガン州のアンネッテ・ライトさん) = 24日、公民権運動の黒人指導者・キング牧師らの呼び掛けで人種差別撤廃を求めたワシントン大行進50周年の記念集会に参加して。

○「英国議会が軍事介入を望んでいないことは明白だ。政府はそれに従って行動する」(キャメロン英首相) = 29日、政府提案のシリア軍事介入容認決議案が与党議員を含む反対多数で否決されたことを受けて。

【9月】

○「(チリのピノチェト軍事独裁政権の弾圧は) 実行し命令した者に責任がある」(ピノチェト政権を支持してきた右派政党出身のピニェラ大統領) = 11日、軍事クーデター40年の犠牲者追悼式典における演説で表明。

○「イランはいかなる場合でも決して核兵器開発を行わない」(イランのロウハニ大統領) = 18日、米NBCテレビのインタビューで米国との関係改善に意欲を表明。

○「そうした恐るべき兵器が単に存在するということが、人類そのものの基盤と両立しない」(マレーシアのナジブ首相=写真、ロイター) = 26日、国連総会の核軍縮に関する

ハイレベル会合で、核兵器廃絶を強調。

【10月】

○「今回の事件がエスカレートしないよう、英知と理性によって解決されることを望む」(リビアのゼイダン首相)＝10日、武装勢力によって一時的に拉致され、解放後の閣議で発言。

○「事件を口実に中国の少数民族・宗教政策を攻撃することには反対だ。まったく的外れており、何らかの魂胆がある」(中国外務省の華春瑩副報道局長)＝31日、天安門前に車が突入した事件でウイグル族の容疑者を拘束したことに関連して。

【11月】

○「私はいまも正当な大統領だ。いま起きているのは(軍による)犯罪的なクーデターであり、私は認めない」(エジプトのモルシ前大統領)＝4日、反モルシ派のデモに対する襲撃を先導した罪に問われた初公判で発言。

○「歴史的出来事だ。何十年も国に流血をもたらした紛争を終わらせるこの機会を逃してはならない」(コロンビアのサントス大統領)＝6日、同国政府とコロンビア革命軍(FARC)が武装解除後のFARCの政治参加で合意したことを歓迎。

○「裁判所は、タイとカンボジアが協力することが重要だと述べた。両国は互いに納得のいく結論を得るために話し合う必要がある」(タイのインラック首相＝写真、ロイター)＝11日、プレアビヒア寺院をめぐるタイとカンボジアの紛争に関する国際司法裁判所の判決を受け、話し合い解決を目指す考えを表明。

○「われわれ保守のやり方ではないが、一つの政府をつくる以上妥協が必要だ。2年間の移行期間もある」(ドイツのメルケル首相)＝27日、社会民主党と自らのキリスト教民主・社会同盟が連立協定に、全国一律の最低賃金を2015年から段階的に導入する内容を盛り込んだことについて。

【12月】

○「平和に向けた変化の力を持つだろう」(インドネシアのユドヨノ大統領)＝13日、東京で講演し、インド・太平洋友好協力条約の締結を呼びかけて。

○「チリは今こそ根本からの変革を始めるときだと決定した」(チリのバチェレ大統領候補
=写真、ロイター)= 15日、大統領選で勝利し、格差是正や大学授業料無償化の公約実現に決
意を表明。

○「私はマルクス主義者ではないが、私の人生で善良なマルクス主義者を多く知ってい
るので、気を悪くしてはいない」(ローマ法王フランシスコ)= 15日、イタリア紙ラ・ス
タンパのインタビューで「マルクス主義者だ」との保守派の批判に反論。

○「政府が気に入らないとしても、民主主義制度は受け入れるべきだ。民主主義に依拠
しないならば何に依拠するのか？」(タイのインラック首相)= 23日、総選挙の「延期」
を主張し候補者登録を妨害する反政府勢力を批判して。

(2013年12月31日,「赤旗」)